

12 保育運動に関わって五〇年

杉山 隆一（大阪保育研究所、社会福祉経営全国会議理事）



実践・運動・交流・研修・研究……………◆

私は、一九七二年四月から大阪保育運動連絡会（以下、大保連）の専従事務局員となりました。一九七〇年代に入り、大阪府下では、児童福祉法二四条を根拠に保育所づくり運動が広がっていました。各地の運動と自治体の動きをもち寄り、連絡・交流するには、どうしても場所を安定的に確保することが必要というなかで、大保連ではそのためのとりくみが開始されました。

一九七三年一〇月に（財）大阪保育運動センターを取得し、交流・研修・研究・相談などの活動がすすみました。私は、研修企画・運営、調査・研究を担当するほか、月刊誌『ちいさいなかま』の購読者の

管理・発送や大保連の通常業務をこなしていました。

研修は、秋葉英則先生や横田事務局長と相談・企画し実施しました。保育学校では、年齢別保育を年度初めに開催、その後、領域別の保育講座やテーマを深める特別講座を開催しました。地域でも保育学校を開催してほしいという声にこたえ、市職労保育所支部と共同で、吹田市を皮切りに各市で保育学校を開催し、保育の充実に貢献しました。

調査では、奥谷さん（一九七四年から専従者）と資料集（資料の収集）の改善に努め、市町村別年齢別保育所入所状況一覧、市町村別給食の実施状況、市町村別保育料などを表や図にして、他市との比較や大阪全体の特徴と課題がわかるようにしました。奥谷さんには資料収集や調査のイロハから資料の整理・加工や分

析の視点を教えてもらいました。統計を読みとることができるようには奥谷さんのおかげです。

保育・学童保育に関するテキストの出版活動◆

大阪保育研究所は、国際児童年（一九七九年）のスローガン「子どもたちに最良のものを残そう」を受け止めた大阪の保育・学童保育運動に参加する人々の二年近い募金活動によって、一九八二年に設立されました。私は、大阪保育研究所では事務局を担い、保育内容・制度政策・障害児保育・学童保育などの分野の研究企画・実施・研究結果のまとめ（出版）などを担当しました。

研究所運営委員会の議論で保育学校のテキストをつくることになり、「年齢別保育研究委員会」を設け、研究者と実践者が一緒に各年齢別の保育内容を検討し執筆しました。私は、研究委員会の進行を軸に編集実務を担当し、一九八四年にあゆみ出版から出版しました。障害児保育、学童保育など月一回の研究会では毎回事務局として関わりました。

保育士・幼稚園教諭の養成に携わって……………◆

指定保育士養成施設の認可をとるため大阪総合福祉

専門学校（一九九二年設立）に移り、堺市との協議や体制整備により、厚労省の指定養成施設とすることができました。認定こども園法成立により、保育士資格と幼稚園教諭免許の併有を保育士の募集要件とする市町村や保育所が増加し、併有の有無が学生募集に影響しました。大阪健康福祉短大（前身は大阪総合福祉専門学校）で保育士資格と幼稚園教諭免許が取得できるために申請準備を担当し、大学設置審をパスし子ども福祉学科の開設にこぎつけました。二〇〇六年に鳥取大学に移り、定年まで保育士・幼稚園教諭の養成に携わりました。

五〇年をふり返ると、大阪保育研究所の事務局を担うなかで、実践者と研究者が共同で研究を進めることで、保育問題を多角的にとらえることのおもしろさに気づけたと感じます。当時は保育実践と保育制度を統一的にとらえた成果もあまり見当たらなかったのですが、実践を制度の視点で考えるときにも、制度が具体化する実践の視点で制度を分析し、問題解決の方向を探ろうと強く思っ、大阪保育研究所で研究活動をおこな